

# テラツァフロアー・竹

## 取付説明書 -300・900・1200・現場組用-

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

### <施工の前に>

- 正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- テラツァシリーズは、住居のバルコニー部に施工していただく製品です。特にマンションやアパート等、集合住宅のバルコニー部へ施工をする際は、下記の「集合住宅に施工する際のご注意」の内容に十分注意してください。
- 集合住宅に施工する際のご注意
  - 施工を始めてから手直しができないように、事前に調査や打合わせを十分に行ってください。
  - 管理組合等へ事前に施工の了解をとり、エレベーターなどの公共設備を使用の際は十分注意してください。
  - 避難用ハッチなどの上には絶対に施工しないでください。
  - バルコニー部は私的所有スペースではありませんので床や壁に孔をあけないようにご注意ください。
  - 施主様立会いのもとで施工を行い、施工中の部材・部品の落下には十分ご注意ください。
- 施工終了後、「取付説明書」は施主様にお渡しください。

### <施工上のご注意>

- 戸建て住宅の屋上階、立ち上がりのないバルコニー風の影響を受けやすい場所では、風圧により本製品が飛散するおそれがありますので使用しないでください。使用する必要がある場合は、ご相談ください。
- 駐車場やガレージなど重量物が乗る場合には、使用しないでください。
- 本製品を敷設するとバルコニー最上部までの高さが1.1m未満となる場所では使用しないでください。
- モルタル仕上げ後および硬化後の平らな床面へ施工してください。
- 施工前には、バルコニー床面のゴミや砂を十分取り除いてください。防水面を傷つけ、雨漏りの原因となります。
- バルコニー床面上で本製品を切断する場合は、床面保護のためコンパネなどを敷いて行ってください。
- 本製品の上で、火を燃やしたり加熱したりすると、燃えたり変形したりしますので、絶対にしないでください。
- 施工後は、必ず残材の清掃を行ってください。排水管をつまらせたり、床面の防水層を傷つける原因となります。
- 床面の防水層を傷つけた場合は、かならず住宅会社・工務店・防水処理業者に連絡して補修してください。
- 当社標準品以外の使用および標準施工以外の施工に関しては、保障いたしかねます。

### ■梱包明細書

#### ① 竹300

名 称	員 数
竹300	10
取付説明書	1

#### ② 竹900

名 称	員 数
竹900	1
取付説明書	1

#### ③ 竹1200

名 称	員 数
竹1200	1
取付説明書	1

#### ④ 現場組用ベース

名 称	員 数
現場組用ベース	10
取付説明書	1

#### ⑤ 現場組用竹材

名 称	員 数
現場組用竹材	6

#### ⑥ 竹端部キャップ **オプション**

名 称	員 数
竹端部キャップ	6

#### ⑦ ベースマット **オプション**

名 称	員 数
ベースマット	10

#### ⑧ 碎石見切材 **オプション**

名 称	員 数
碎石見切材	10

#### ⑨ 側溝サポート材 **オプション**

名 称	員 数
パンチングプレート	3
側溝サポート部品 (大)	60
側溝サポート部品 (小)	60

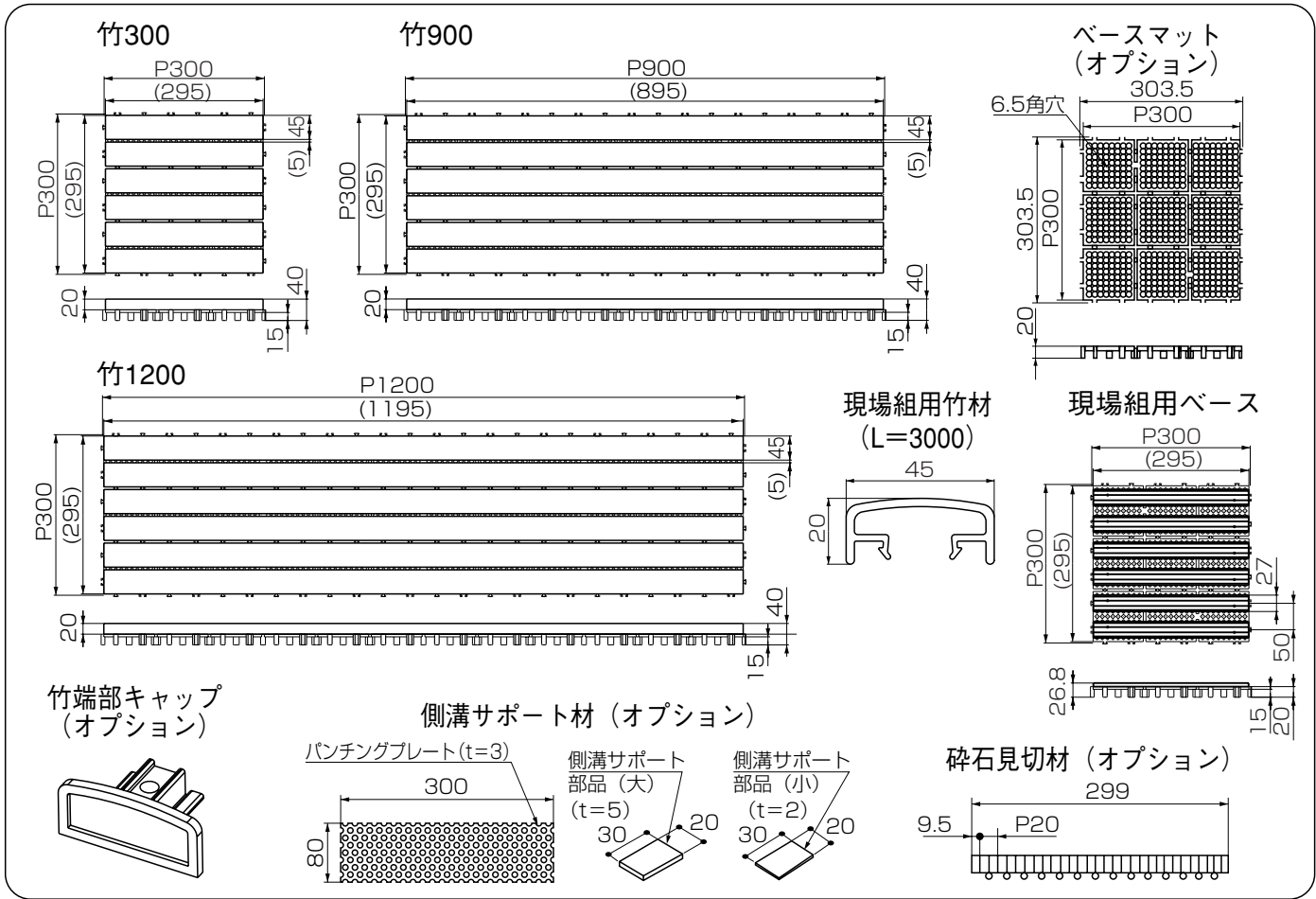
#### ⑩ ブリックチップ **オプション**

名 称	員 数
カラブリック	各10Kg
グレーブリック	
クッキーブリック	
ストーンブリック	

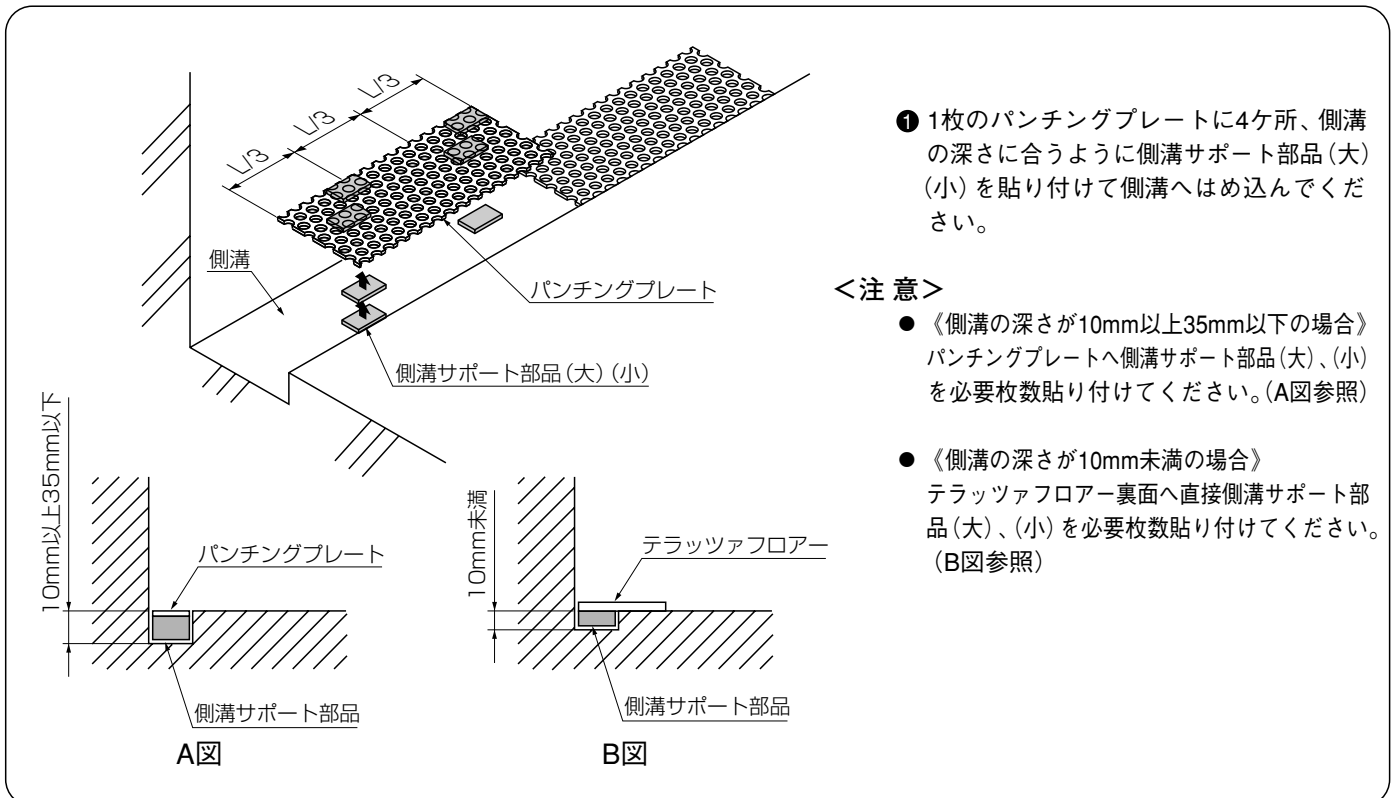
#### ⑪ 玉石 **オプション**

名 称	員 数
さび玉石	各10Kg
蛇紋玉石	

# 1. 基本寸法

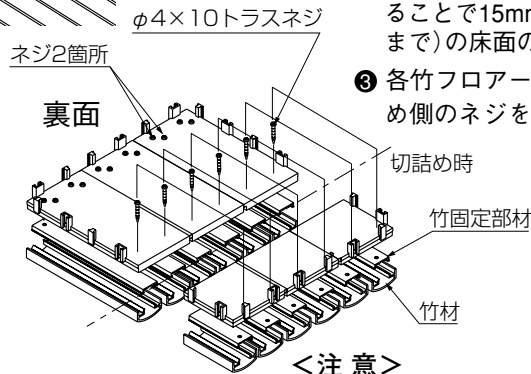
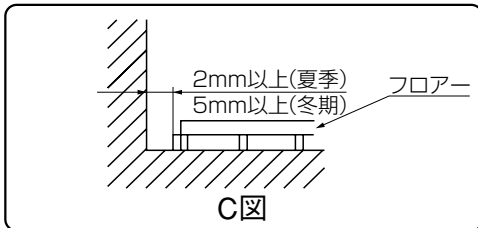
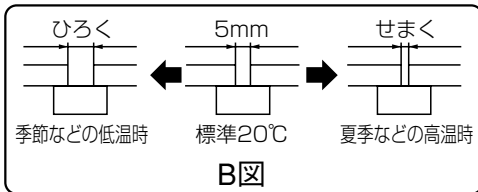
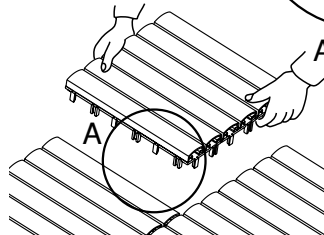
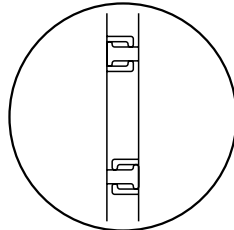
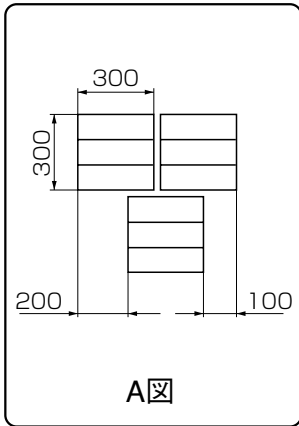


# 2. 側溝サポート材(オプション)の取付け



### 3. フロアーの施工方法

#### 3-1 竹300,竹900,竹1200の施工方法



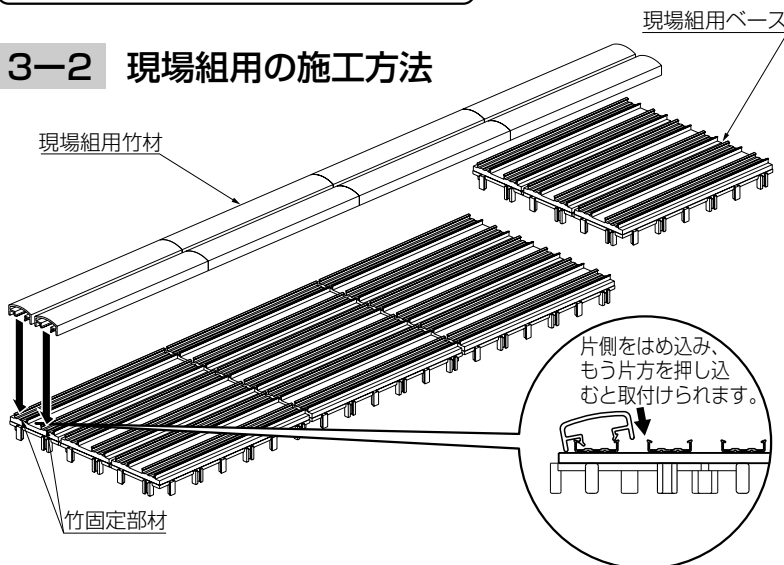
<注意>

- 竹300・900・1200のツメとツメどうしを引っ掛けあわせて連結してください。
  - 各竹フロアー端部のツメはニッパ等で切断してください。(納まりが美しく見えます)
- <注意>
- 各竹フロアーは100mmきざみでずらして取付けることができます。(A図参照)
  - 温度変化による製品の伸縮を吸収するため、製品どうしの連結部に隙間をあけて施工してください。(B図参照)
  - 温度変化による製品の伸縮を吸収するため、壁と製品の間に隙間をあけて施工してください。(C図参照)
  - 各竹フロアーの脚部をニッパ等で切断することで15mmまで(900・1200は一部6mmまで)の床面の不陸(凹凸)に対応できます。
- 各竹フロアーは切詰めが可能です。切詰め側のネジを取付け直してください。

<注意>

- 切詰めは裏面のネジが、1箇所の方から行ってください。
- 切詰めした場合はその辺での連結はできなくなります。

#### 3-2 現場組用の施工方法

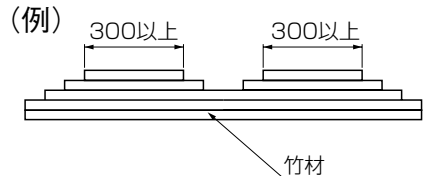


<注意>

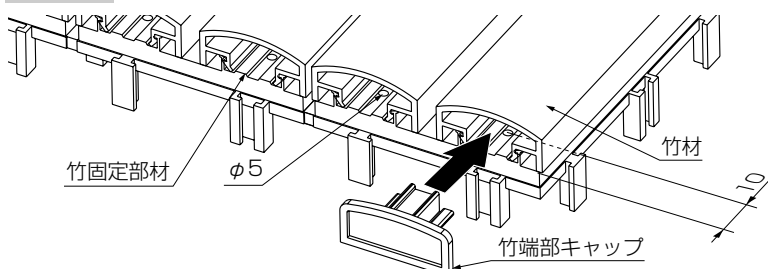
- 現場組用ベースを敷きつめてください。(3-1 ①・②と同様に行ってください)
- 必要な寸法に切った現場組用竹材を竹固定部材にはめ込んでください。

<注意>

- 竹材は300以上の寸法でお使いください。



#### 3-3 竹端部キャップ(オプション)の取付方法



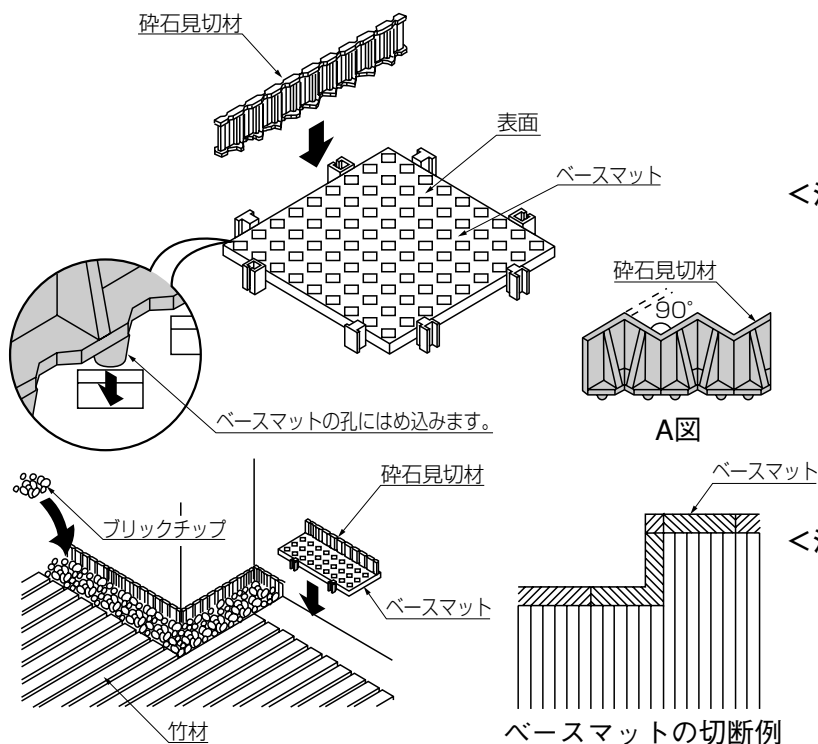
- 竹端部キャップを竹材端部に押し込んでください。

<注意>

- フロアーを切詰めした場合は竹固定部材にφ5の孔をあけてからお使いください。(端から10mm中心位置)

## 4. フロアの演出方法

### 4-1 碎石見切材(オプション)とベースマット(オプション)による演出方法



- ① ベースマットおよび碎石見切材は必要なサイズ・形状に切断し（B図参照）碎石見切材の突起部をベースマット表面の孔へはめ込んでください。

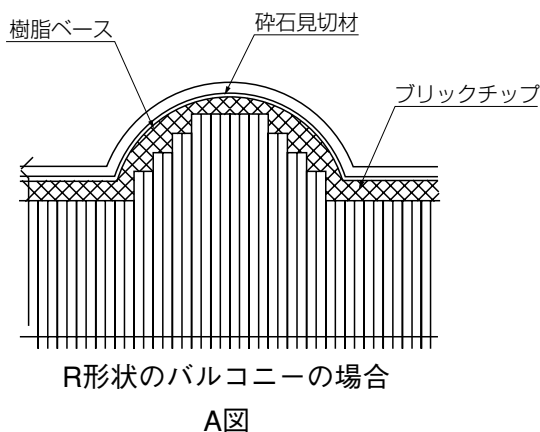
#### <注意>

- 碎石見切材は20mmピッチで90°に曲げられますので必要な形状にしてはめ込んでください。（A図参照）
- ② 碎石見切材をはめたベースマットを各フロアにはめ込み、ブリックチップ又は玉石を入れてください。

#### <注意>

- ブリックチップ・玉石1袋（10kg）はベースマット4枚分（0.36m<sup>2</sup>）を敷きつめられます。

### 4-2 竹材および竹固定部材を取り外しての演出方法



- ① 竹材および竹固定部材を部分的に取り外し、樹脂ベースをバルコニーや障害物の形状にあわせて切断し、碎石見切材をはめ込みブリックチップ・玉石を敷いてください。（A図・B図参照）

### 施主様へ

- 雨や散水のあとや雪・霧・霜等で製品表面が濡れている場合など、たいへん表面が滑りやすくなりますので、歩行には十分に注意してください。
- フロアでは履物を着用してください。夏季の高温下では製品表面が熱くなり、素足で歩くとやけどをするおそれがあります。
- 本製品の上で、火を燃やしたり加熱したりすると、燃えたり変形したりしますので、絶対にしないでください。
- 本製品が汚れた時は、雑巾での水拭き、またはスポンジやブラシで水洗いをしてください。水で落ちない場合は中性洗剤を使い、洗浄後は洗剤をしっかりと洗い流してください。その後必ず乾拭きをしてください。表面のシミの原因になります。
- 本製品のスキマにゴミやほこりが詰まった時は、掃除機で吸い取ってください。
- 「竹材」が割れたり、破損した場合は、破損部位のユニット又は竹材を直ちに交換してください。
- 本製品を廃棄するときは、専門の処理業者に依頼してください。

取説コード

E107

200102A